

うらら 2019 年度事業計画

サービス部門（施設・訪問）

事業部門 みずべの苑	年度活動計画	目標値
入居サービス	<p>基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設サービスは、高齢者の在宅生活をバックアップするためのセーフティネットとして入居型サービスを提供する。 2. 通所型サービスと宿泊型サービスでは在宅継続支援の長期計画を支えるためのケアとして提供する。 3. 施設は緊急時の施設提供と施設設備を使った地域支援を担う。 4. 福祉サービスを支える人材を介護現場で確保し育成する。 	
<p><u>みずべの苑特養</u></p> <p><重点課題> “特別ではなく、入居者の「普通」の生活を「あたりまえ」に続けていくことを支援します。”を基本方針とし、基本の日常生活ケアを支援する</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 口から食べること（摂食・食事） ② トイレで排泄すること（排泄） ③ 普通の生活の中で適度な活動ができること（静と動のリズムを整える） 良い睡眠を得られ健康な生活となる。それにより、穏やかな最期までの支援をする。 ④ ①～③の基本となるのは尊厳重視（身体拘束禁止）、安全の確保（リスクマネジメント）の実践。 ⑤ 業務改善を行いケア時間や研修時間を拡大する。 	<p>活動成果の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド稼働率 96% ・空床(空籍含)月のべ数 63名 ・退所後空ベッド 11日以内 ・穏やかな施設内看取り 90% <p>・食事、排泄、入浴のチェック表をほのぼのシステムに移行が完了し入力時間減少</p>
<p><u>みずべの苑</u> <u>ショートステイ</u></p> <p><重点課題> 医療処置と機能訓練を特徴としたショートステイ利用者へのサービスの継続</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 医療処置、機能訓練に特化した、ショートステイの継続をサービス担当者会議への参加や、ケアマネの会への参加で広報しサービスの差別化を図る。 ② 業務効率化として夜勤職員配置の見直しを行う。 ③ 見守りセンサーで夜間の睡眠状態や活動の状況を把握する。 年度内に導入を目指す。センサー活用での就寝リズムのデータ化や行動 	<p>活動成果の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド稼働率 107% ・医療処置対応者 月80件 ・看護体制加算Ⅲ、Ⅳ算定 ・介護度3-5比率 70%以上維持 ・夜勤職員2名から1名体制 <p>・見守りセンサー設置完了 ・センサーデータから、在宅へ睡眠情報等の提供</p>

	パターン把握をもとに、ケアプランへの情報提供をする。	
事業部門 みずべの苑	年度活動計画	目標値
通所型サービス	基本方針 1. 稼働率の向上を図る 2. サービスの質の向上を図りご利用者の満足度を高める 3. 職員の介護技術及び認知症ケアスキルを向上させる 4. 地域との連携を促進させる	
みずべの苑 大規模型通所介護 ＜重点課題＞	① 稼働率の維持向上 （デイ通信、HP 等効果的な PR 活動の継続、居宅への定期訪問） ② 研修体制の充実 ③ サービス内容の充実 ④ 業務の効率化を図る	① 利用者数 1 日平均 34.2 名 ② 毎月の内部研修会の継続 共育委員会との連携による認知症勉強会の推進 ③ 外出サービスやきめ細かいサービスの充実 ボランティアの積極受入れ ④ 介護記録など日常業務にほのぼのソフトを活用する
みずべの苑 認知症対応型通所介護 ＜重点課題＞	① 稼働率の向上 （広報活動及び居宅訪問の充実） ② 研修体制の充実 ③ サービス内容の充実 ④ 業務の効率化を図る ⑤ サービス提供体制加算の算定	① 利用者数 1 日平均 17.4 名 ② 毎月の内部研修会の継続 共育委員会との連携による認知症勉強会の推進 ③ 外出イベント、食事・おやつ作り等の推進 ボランティアの積極受入れ ④ 介護記録など日常業務にほのぼのソフトを活用する ⑤ 介護福祉士比率 50% 以上
あかり家 認知症対応型通所介護 ＜重点課題＞	① 稼働率の向上 （広報活動及び居宅訪問の充実） ② ケアスキル全般の底上げ ③ サービス内容の充実	① 利用者数 1 日平均 9.4 名 ② みずべデイと連携して推進 ③ 外出機会の増加と脳トレなど多彩なサービスの定着 ボランティアの積極受入れ 運営推進会議の開催

事業部門 ここら	年度活動計画	目標値
複合型地域密着型 サービス施設	基本方針 1、地域の認知症ケアの拠点となれるよう、認知症ケアの提供と地域交流スペースを活用して地域住民との交流を図る。 2、利用者確保に努め、稼働率を安定させる。	
<u>グループホーム</u> ここら	① 職員の定着 ② 接遇の強化	① グループホームここらの目標を知る機会を作る。 2階、3階の会議と勉強会を2か月に1回交互に行う。 ②虐待の芽チェックシートの活用
<u>小規模多機能型居宅介護</u> ここら	① 在宅生活を継続するためのサービスの見直しの強化	① ご利用者が地域の中で生活できるよう、職員で意見交換の場と情報共有の場を作る。(月1回) ② 小規模多機能を知るための他の小規模多機能を知る機会を作る。(年2回)

事業部門 訪問サービス	年度活動計画	目標値
訪問型サービス	基本方針 1. 介護サービス・看護サービス・相談サービスが連携して地域での在宅生活を支える。 2. 施設サービスと情報共有して、施設活用しながら地域での生活継続を支える。	
<u>みずべの苑</u> <u>訪問介護</u> <重点課題> サービス提供責任者による従来型訪問介護の安定供給する。	① サービス提供責任者は3名体制とし、育成を含め4名体制へ拡大する。職員は日勤者及び常勤の配置を拡大する。 ② サービス提供責任者は、介護実習生の実習指導にも当たり、将来の介護職候補者へ繋ぎ、訪問介護人材確保の基盤を作る。	① サービス提供責任者 3名 登録者数 100名 月提供述べ時間 1200時間 ② 実習指導者研修受講 1名
<u>うらら訪問看護</u> <重点課題> 地域の在宅療養生活を、医療面で支援する	① 障害福祉課障害相談係との連携を継続し、障害者支援の知識を深め実践する。 ② 職員の定着をはかり、ターミナル期や頻回訪問のニーズにこたえられるよう、事業所の体制を維持する。 ③ 認知症ケアのスキルを高め、グループホームへの訪問(医療保険)などで法人運営に貢献する。	① 障害相談係や障害者支援センターへの訪問は、1回/3か月で継続。 ② ・新規契約は2件/月 ・利用登録者 80名 ・1か月の訪問件数：500件 ・看護師5名体制 ・機能訓練専門職 (PT, OT, ST) 1名配置